

第 35 期第 1 回横浜市児童福祉審議会 放課後部会 会議録	
日 時	令和 7 年 6 月 30 日（月） 18 時 50 分～19 時 30 分
開催場所	横浜市庁舎 18 階 みなと 6・7 会議室
出席者	明石要一部会長、青山鉄兵副部会長、金藤ふゆ子委員、鈴木裕子委員、高杉陽子委員、藤崎健児委員、辺見伸一委員、三浦尚美委員、宮永千恵子委員
欠席者	松本豊委員
開催形態	公開（傍聴者 1 人）
議 題	(1) 令和 6 年度 放課後児童健全育成事業の監査結果について
<p><b>(1) 令和 6 年度 放課後児童健全育成事業の監査結果について</b></p> <p>（事務局）資料 5 及び資料 6 に基づき説明</p> <p>（青山委員）毎年この数字を見せていただいている、義務化の問題とか、コロナの問題とか、毎年状況が変わる中で、全体として、こういう形で並べてみると数字的にはやっぱり改善が徐々に見られてきていて、システムとしても完成度が上がってきているのかなという感触は持っています。もちろん今教えていただいたこともたくさんあると思うんですけども、逆にもっとここをこうしたいとか、事務局的に課題になっているようなところがあれば教えてもらいたいなと思って聞いていましたが、いかがでしょうか。</p> <p>（事務局）事務局的には、先ほどと重なる部分になりますが、お子様の健康をつかさどるような部分の安全対策ですね、食中毒であったり、感染症であったり、熱中症とかが非常に起きそうな状況がありますので、そういったものの対応というのはしっかりできるようにというのは、監査を抜きにしても、事業所のほうにはしっかりと啓発を進めていって、お子様を安全安心で預かれる環境というのを一番重視していきたいと思っております。</p> <p>（青山委員）多分それぞれあると思っていて、この監査で分かることと、それから、子ども・子育て会議のほうで出てきたような計画の進捗状況の中で分かること、あるいは、現場で数字ではなかなか分からないことも含めていろんな評価の軸があると思いますので、そういったものを総合的に見ながら、特に数字では分からないところなんかも、やっぱりこれから少しずつ、暑さのことなんかも含めてですけれども、把握がしていけるものが増えていくといいなと思っております。</p> <p>（辺見委員）単純な話かもしれませんが、立入調査をして、大小いろんな箇所で指摘があるということは、基本的には、こどもさんが相手なので、指摘はないほうが一番ベターだと思っています。それを 1 つずつの項目でもかなりのパーセンテージで口頭指導とか文書指導があるというのが、経営していく側としてどうなのかなと思っております。いずれ何かがあってからだ、遅いのではないかなと思っているんですけども、その辺はどうなのでしょうね。ゼロになるというのは難しいのかもしれないですけども、その辺をどうお考えなのかお聞かせください。</p>	

(事務局) おっしゃっていただきましたとおり、やはり指摘というのではないにこしたことはないなと思うんですけども、一方で事業者さんもかなり忙しく頑張っているというのもあります。そんな中で、今回指摘しているのは、文書指導のほうが比較的重いものとなり、口頭指導は軽めなものです。軽い違反のうちに、そこを区ないし事業者のほうと確認し合うというところで、大きな事故が起きないようにというところで今は考えているところです。おっしゃっていただいたとおり、もちろんゼロにしたいという思いはあるんですけども、いきなりなかなか難しいところは、かなり項目も多いので、どうしても見落としとかが出てきてしまうところがあるので、そういうことがなくなるように、一つ一つ丁寧に、なくなるように指導のほうを、事業者さんと一緒にやっていければと思っている次第でございます。

(宮永委員) 2点ほどありまして、1つは、今回の立入調査の中で文書指導というのはあったようなんですけれども、改善勧告というところまでいっているのではないという理解でよろしいんでしょうかということが1つと、もう一つは、これは保護者というか、障害を持つこどもの親として1つ気になったのが、業務継続計画の策定の部分で、非常災害等の発生時における業務継続計画の部分で、非常時にお子さんたちが不安になるということがとても多いと思うんです。その中でも障害のあるお子さんとか、ちょっと情緒の不安定なお子さんであったり、あと医ケアのお子さんというもいらっしゃるんで、その部分に対応がちゃんとできるのかというのを今後確認して欲しいなというふうに思っております。もちろんちゃんとされているとは思いますが、そういう部分も確認をして欲しいなと思っております。

(事務局) 1つ目の質問については、この指導以上の勧告等に進んだ事業者についてはない状況でございます。

2つ目の業務継続計画ということで、いざというときに障害のあるお子様であったりとか、医ケアのお子様であったり、そういったお子様も安全にお預かりできるというところは、こちらのほうでも普段から確認はしていきますし、今後につきましても、困ったことにならないように、いざというときにもしっかり対応できるようにというところはクラブのほうにも伝えていきたいと思っております。

(明石部会長) この58項目全部ゼロというのは無理なんですよ。その中で、ここだけはゼロにしたいなという認識が必要です。例えば健康診断では早期発見が求められます。学校では、健康診断は義務化されていますよね。そういう意味では、人材が一番大事なので、健康管理はゼロに近づいてほしいと思います。次は危機管理、感染症とか、食中毒とか、こういうのはやっぱりもう基本的にゼロに近くというふうに持ってほしいと。

今回ここできなかったのは、放課後というのはブラックボックスになりやすいので、相当職員研修

も含めて、性的な問題とかも含めた視点もどこかで入れておかないと、いけないかなと感じております。この58項目も大事にしていきたいので全てがゼロに近づくんだけれども、ここだけはゼロにお願いしたいと思います。例えば、Aランク、Bランク、Cランクぐらいを内々に押さえたほうが、よいのではないのでしょうか。58 全部は無理なので、各事業所にランク分けをお願いしておくということもこれから大事かなと思っております。

（事務局）おっしゃっていただいたとおり、特にやはり職員の方であったり、お子様の安心安全の部分に関わる部分というのは重要視してやっていきたいと思います。

先ほどあった性的な部分というところにつきましては、職員の方にはこどもの人権というところで研修をさせていただいていますが、今後再度考えていかなければいけないとは思っている次第でございます。

事件を起きにくくするための備品、防犯カメラであったりとか、パーティションを設けるといった補助金は用意して昨年度から進めさせていただいているところではありますので、そちらについては引き続き周知のほうを図っていつ、そういったところで防げるものは防いでいきたいと思っております。

（金藤委員）今の質問と関係します。ただ全体的には、自己点検の評価を毎年した上で、3年ごとの立入の評価もさせていただいているというのは大変すばらしいシステムが構築されていますし、質保証ということで物すごく御尽力いただいているんだということを改めて理解しました。また、結果も改善されているという全体的な傾向というのは大変すばらしいと思いました。

ただ、先ほども出ました、項目の中に重みがよりあるというものが存在していると思います。数だけではなくて、先ほど出たこどもの人権に十分配慮しているかどうかというところについては、放課後キッズクラブで3か所ですね、第7章の(7)のところでは3か所あるといった、自己評価の結果だと理解していますけれども、こういう部分は、件数が少なくともぜひゼロにするよう御尽力いただきたいと思います。

（明石部会長）大事な御指摘をありがとうございました。今金藤委員が言われたように、仕組みとしてはかなりよくなってきているし、だけれども、58 項目同じ扱いではなくて、それなりの重みづけも絞っていただくと、各事業所もそこに配慮する。全てやると、大事なところを意外と逃す場合があるので、58 項目全部というのは個人的には無理だと思うので、その代わり、ここだけは死守してくださいというぐらいな重みづけもこれからはしていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

では、本日の議事はこれで終わりたいと思います。

資料	資料 1 横浜市児童福祉審議会放課後部会 委員名簿 資料 2 横浜市児童福祉審議会放課後部会 事務局名簿 資料 3 横浜市児童福祉審議会条例 資料 4 横浜市児童福祉審議会運営要綱 資料 5 令和 6 年度 放課後児童健全育成事業 監査結果報告書 資料 6 監査結果報告
特記 事項	—